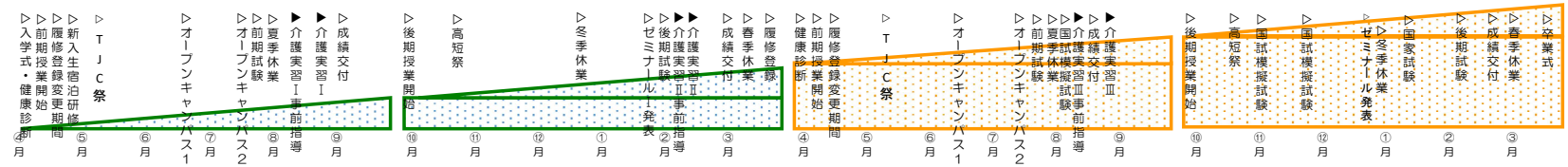
高田短期大学　キャリア育成学科　介護福祉コース　カリキュラムマップ（2026年度入学生用）

2026.3作成



２年間の学び

1年次
福祉や介護に関する基礎知識と、介護福祉士の基礎技術を学びます。夏休みには2週間の介護実習を行い、現場の様子や利用者とのコミュニケーションを体感。さらに春休みの4週間の介護実習では、利用者への介助に挑戦し、介護実践力を身につけます。

2年次
1年次に学んだ基礎知識や基礎技術を発展させ、応用可能な実践力へと高めていきます。また夏休みの4週間の介護実習では、施設の職員と協力しながら、対象となる利用者のケアプランを自ら作成し、介護を実践。これまでの学びの成果と問題点を理解し、福祉観、介護観の確立を目指します。

			１年前期〈入門期〉	１年後期〈変身期〉	２年前期〈充実期〉	２年後期〈総仕上げ期〉
共通教養科目	必修科目		人生と仏教Ⅰ 日本語表現 情報基礎演習 スタートアップゼミナール	人生と仏教Ⅱ		
	選択科目		スポーツと健康（実技） 英語コミュニケーション	暮らしと数学	法学(日本国憲法含む) 暮らしと政治	暮らしと環境 スポーツと健康（講義）
専門科目	介護福祉士資格関連科目	ゼミナール 必修		ゼミナールⅠ　C/E/F	ゼミナールⅡ　C/E/F	ゼミナールⅢ　C/E/F
		キャリア 必修	キャリアデザインⅠ　D /F			
		キャリア 選択科目	経済学　C	キャリアガイダンス　D/F キャリアデザインⅡ　D/F 文書情報演習Ⅰ　D	社会学　C	
		ピアヘルパー 選択科目			カウンセリング概論　B/C	カウンセリングの技法　B/C 青年心理学　B/C
		レクリエーション 選択科目	レクリエーション理論　B/D 現　場　実　習　B/D	現　場　実　習　B/D		
		医療福祉 選択科目			医療事務　B	介護事務Ⅰ・Ⅱ　B
		人間と社会	生活と福祉　A/B ボランティア論　C/E/F	人間関係Ⅰ　B/C	社会保障　B 災害福祉　B/E/F	地域福祉　B/E 人間関係Ⅱ　A/B 人間理解　A 生活文化　B
		介護	くらしとレクリエーション　D/E コミュニケーション技術Ⅰ　B/D 基礎生活支援技術Ⅰ　B 基礎生活支援技術Ⅱ　B 応用生活支援技術Ⅱ　B/D 介護過程Ⅰ　A/C/D 介護実習総合演習Ⅰ　B/D/E 介護実習Ⅰ　D/E/F	介護概論　A/B 老人のくらし　A/B コミュニケーション技術Ⅱ　B/D 生活の理解Ⅱ　B/C 基礎生活支援技術Ⅲ　B 基礎生活支援技術Ⅳ　B 応用生活支援技術Ⅰ　B 介護過程Ⅱ　A/C/D 介護実習総合演習Ⅱ　B/D/E 介護実習Ⅱ　D/E/F	介護管理　B/E くらしとリハビリテーション　B/F 生活の理解Ⅰ　B/C 応用生活支援技術Ⅲ　B/F 総合生活支援技術　B/F 介護過程Ⅲ　A/C/D 介護過程Ⅳ　A/C/D 介護実習総合演習Ⅲ　B/D/E 介護実習Ⅱ・介護実習Ⅲ　D/E/F	障害者のくらし　A/B 介護過程Ⅴ　A/C/D 介護実習総合演習Ⅳ　B/D/E 介護実習Ⅲ　D/E/F
		こころとからだのしくみ	心と身体のしくみⅠ　B/C 人間発達の理解Ⅰ　A/B	心と身体のしくみⅡ　B/C 心と身体のしくみⅢ　B/C 人間発達の理解Ⅱ　A/B 認知症の理解Ⅰ　B/C	心と身体のしくみⅣ　A/B/C 認知症の理解Ⅱ　B/C 障害の理解Ⅰ　B/C	障害の理解Ⅱ　B/C
		医療的ケア		医療的ケアⅠ　B/F	医療的ケアⅡ　B/F	医療的ケア演習　B/F
		介護福祉演習			介護福祉演習Ⅰ　B/C	介護福祉演習Ⅱ　B/C
留学生			日本語表現　B/D 日本語会話Ⅰ　B/D	日本語作文Ⅰ　B/D 日本語会話Ⅱ　B/D	日本語作文Ⅱ　B/D 日本事情Ⅰ　B/C	日本語作文Ⅲ　B/D 日本事情Ⅱ　B/C

介護福祉コース ディプロマ・ポリシー

※科目名の後ろにA～Fで特に重要な目標の観点を示す

A. 倫理観

対人援助の実践をするうえで、介護福祉士の倫理綱領を理解しており、人間の尊厳や人権を守ることができる倫理観を身につけている。

B. 知識・技能

高齢者や障害者の介護福祉実践に必要な知識や技能を身につけており、適切に活用することができる。

C. 論理的で柔軟な思考と判断力

援助対象者の状態に応じて想定される変化やさまざまな課題に対して、論理的かつ柔軟に思考し判断することができる。

D. 自己表現力

介護福祉実践において生じるさまざまなできごとについて学んだ知識を生かし、関係者に対して自分の意見や考えを状況に応じた手段で適切に表現することができる。

E. 主体的な行動力

地域社会や福祉施設などにおいて、自ら課題を発見し、目標を決め、解決に向けて主体的に取り組むことができる。

F. 他者との協働力

他職種の役割を理解し、組織の一員として関係する人々の意見を聞き、調整しながら連携・協働してものごとに取り組むことができる。